



福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和55年に設立した在宅サービス提供機関です。  
誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。

先月は長雨や台風にたたられ、清澄な秋空を振り仰いだ  
記憶も定かではない程でした。

陰暦で11月の異名は雪待月。立冬の初候には山茶花が  
咲き始め、空の端に晩秋と初冬が交わります。

朝寒、宵寒・・・日毎に冷えまさる季節です。  
皆様にはどうぞご自愛ください。



### <紙面から>

北町高齢者センター開設30周年記念

子育てひろば「みずきっこ」開所式典・・・1ページ

ホームヘルプセンター武蔵野研修会

コミュニティカフェ開催・・・2ページ

デイサービス外食会 権利擁護センター・・・3ページ

お知らせ リレーコラム・・・4ページ

## 北町高齢者センター開設30周年記念 子育てひろば「みずきっこ」開所式典



10月22日、記念式典が開催されました。

折しも台風が接近し降りしきる雨の中、市長、副市長、前市長、前衆議院議員、都議会議員、市議会厚生委員会委員長、同委員、市議会文教委員会委員、ボランティアなど関係者56人が参列して、北町高齢者センターの00新たな出発をお祝いしました。

山崎浩先生・倫子先生ご夫妻が自宅土地を市に寄贈したことが基礎となり、昭和62年10月にセンターは開設されました。市民生活の延長線上のデイサービスとして、誰もが気軽に利用でき、心が通う仲間がいる場、「みんながいて、やすらぎはぐくむ」場として発展しました。

主催者である市長挨拶、来賓の祝辞など、関係各位から共通して話されたことは、山崎先生ご夫妻が身を以て示された「人の役に立つ」「他者に尽くす」という精神でした。

その理念を脈々と継承して、今もセンターは多くのボランティアの皆様の参加と協働により運営されています。

旧山崎邸2階には子育てひろば「みずきっこ」がオープンしました。

運営団体・サニーママ武蔵野のスタッフ全員がセンターにボランティア登録しました。山崎先生ご夫妻の精神遺産である「市民相互扶助・協働の精神」を率先して体現し、若い子育て世代に広げていくためです。

参列者は、武蔵野紙芝居一座の新作「魂に寄り添って生きた女医 山崎倫子物語」の熱演を通して、先生ご夫妻の人生の軌跡をたどり、テーマソング「おお北町高齢者センター」を全員で合唱して、センターの伝統を感得しました。

これからも福祉公社は、山崎浩先生・倫子先生のご功績を顕彰しつつ、その理念を次代に継承し、子育て世代との協働・連携など、センター運営を通して新しい福祉を開拓します。



## 北町高齢者センター開設 30 周年記念式典 フォトグラフ



メモリアルルームも開設



市長挨拶



武蔵野紙芝居一座 尾崎氏の口演



「おお北町高齢者センター」合唱

### ホームヘルプセンター武蔵野 認知症研修

#### 「認知症の人の歴史を学びませんか ～レンズをとおしてみた認知症～」

10月31日、写真家の田邊順一氏を講師に迎え、市内の介護職を対象に研修を開催しました。

田邊氏のライフワークのテーマは「老い」。「家族介護が当然」と言われ、福祉資源の希薄な時代に、止むを得ず老人病院に高齢者が「収容」された昭和の時代から今日まで、過酷な状況で生きるその現実を、半世紀に亘り撮り続けて来られました。

その写真の数々を観ながら、撮影当時の時代背景、被写体となった高齢者の人生行路、想い、家族環境などの説明を聞きました。百聞は一見に如かず、写真に切り取られた現実には圧倒され、認知症を切り口に「人間の尊厳」について、深く考える契機となった研修でした。

参加者のご感想は、「これからは人間の尊厳を意識しながらケアに取組みたい」「人間が人間らしく生きることについて考えさせられた」「このような高齢者の悲惨な歴史の上に今があるとは、考えも及ばなかった」「人生の痛み、悲しみ、喜びを感じられた」「写真で見せられるインパクトの大きさ」などで、一同は強い印象を受け、問題意識を喚起されました。

「人はどのような過酷な状況に置かれても、必ずやそこに光を見出す力を持っている。しかし、そんなに甘くない現実をしばしば突きつけられる」、田邊氏のメッセージです。

### 高齢者総合センター コミュニティカフェ 開催

Community  
Cafe 2017

10月27日、澄み切った秋晴れのもと、高齢者総合センターの西側の敷地で開催しました。センターと言う福祉資源を起点として、各福祉団体による地域に密着した活動内容をPRし、「まちぐるみの支え合い」を推進するイベントです。

地域に根差した福祉活動を行う中央・西久保・大野田各福祉の会、千川地域福祉活動推進協議会、NPO 法人ペピータ、緑町きらきらプロジェクトなどの皆様と協働して開催しました。無料でコーヒーを提供するオープンカフェ、各団体やセンターの活動についてのパネル展示、苔玉づくり体験、福祉公社権利擁護センターによる老いじたく相談会、東日本大震災被災地支援のラスク、パールブーケのパンの販売の各イベントを行いました。通りがかりの多くの方が立ち寄り、カフェでくつろぎながら、交流を深めました。



パネル展示

ガーデニング講座・三浦講師による苔玉づくり体験には41名の方が参加され大盛況！カフェではコーヒーを200名以上の方が楽しめました。午後には講座の自主グループ・まっぼっくりの会によるバイオリン演奏もあり、多くの方が集い、人の輪が広がる心温まる時間となりました。

毎年のコミュニティカフェにより育まれた人の輪をより広げられるよう、これからも福祉の拠点として、センターは福祉のまちづくりに尽力します。



賑わう会場と苔玉づくり



## 遠足気分 みんなでワイワイ お出かけ 外食会

高齢者総合センターデイサービスセンターでは、春と秋に外食会を開催しています。

ご利用者から「お肉が食べたい！！」とのリクエストを受け、「肉の万世」で“一番人気！黒毛和牛ハンバーグセット”を賞味しました。

「なかなか夫婦で外出できないから嬉しいです」とご利用者 N さんの奥様。なんと 80 歳を過ぎて

もピアノの現役講師です。「是非センターでリサイタルを」とお願いしました。「場所が変わって、みんなで食べるとおいしいねえ」「普段は一人暮らしだから、にぎやかで嬉しい」、ご参加の皆様はそれぞれに心も舌も満たされます。食後にソフトクリームとコーヒーを味わい、ゆったりとした時間を過ごしました。

往復の車中も会食の場も、デイサービスならではの家族的雰囲気、「一家で遠足」のようなウキウキ気分でした。



## 権利擁護センターとつながる安心 ～ お一人暮らしでも お子さんがいなくても ～ 様々なニーズにお応えし ご利用者を支えます

権利擁護センターは多種多様な事業を実施していますが、福祉公社発祥の有償在宅福祉サービスの系譜に連なる「つながりサポート事業」についてご報告します。

A様ご夫妻のご利用例を、そのご了承とご協力の上でレポートします。

A様は 82 歳、数年前に 96 歳のご夫君と他市の一戸建てから市内の集合住宅へ転居しました。

「武蔵野市の福祉は充実しているから」というのも理由の一つで、権利擁護センターのサービスのご利用も視野に入れていたそうです。

転居後ご夫妻で有償在宅福祉サービス（現・つながりサポート事業）をご利用になりました。

「夫婦共に元気なので、今のところは見守りで」と、毎月の定期訪問にて日常のご相談を承り、公社サービスのみならず、各種の社会資源や福祉サービスについてご案内しました。

A様には持病があり、継続的に服薬治療を受けていましたが、効果があまり見られなかったため服薬を中止し、ご自宅で療養生活を送っています。持病が悪化する可能性もあり、「私に何かあったら夫のことをサポートしてほしい」と常々お話しでした。

また、ご夫君は足腰がやや衰えていたので、週に 1 回リハビリデイに通所中でした。

今年になり、ご夫君に記憶力、理解力の顕著な低下が発現し、各種の手続きや金銭管理が自らできなくなってしまいました。また、A様もご体調が悪化し、ご夫君の手助けもままならない状況となりました。そこで、成年後見制度の利用を希望され、福祉公社がご夫君の成年後見人に就任しました。これにより財産管理・身上保護の側面からご夫君の生活全体、人生そのものを包括的に、よりこまやかに支援できることとなりました。

A様はこれで一安心され、継続してつながりサポート事業により、在宅生活の様々な相談援助、通院・入退院の支援サービスを受けていました。

介護保険サービスはケアマネジャーが、基礎的な福祉は在宅介護・地域包括支援センターが、ご本人に寄り添い、その意思の代弁（アドボカシー）をし、財産管理面や各種手続きなどの社会的支援、緊急時の対応などを権利擁護センターが担います。

このように各社会資源がそれぞれ役割分担しながら、権利擁護センターが中心となり、関係者と連携して、ご夫妻の生活を支えています。

つながりサポート事業には親族の代行機能もあり、在宅生活から没後の事後対応までを守備範囲とする信頼に足る独自のサービスです。

お気軽にご相談ください。お待ち申し上げます。

ご連絡先：権利擁護センター ☎ 23-1165



# 会社からのお知らせ

## 老いじたく講座 ～老いじたくの基礎知識～

誰にでも訪れる老いに備え、元気なうちから準備して、尊厳ある老後生活を築きましょう。

日時 11月27日(月)13時30分から15時00分  
場所 福祉公社 1階会議室

## ～エンディングノート 書き方講座～

日時 12月14日(木)10時30分から12時00分  
場所 福祉公社 1階会議室

問合せ 在宅サービス課 権利擁護センター  
申込 ☎ 23-1165

## 社会活動センター講座紹介ビデオ上映会 ～講座を知ろう！～

来年度の講座受講をお考えの60歳以上の市民の方、講座内容に興味のある方へおすすめ。講座の紹介と講師のコメントを上映します。

日時

- ① 12月11日(月)13時30分から14時30分
  - ② 12月13日(水)10時00分から11時00分
  - ③ 12月15日(金)10時00分から11時00分
- 場所 高齢者総合センター

\* 3回実施 各回同内容 30名まで

申し込み不要/直接社会活動センターへ  
問合せ 社会活動センター ☎ 51-1975

## 職員リレーコラム

### 第42回 「うぐいす」

ホームヘルプセンター武蔵野 久保 順子



渡り鳥のニュースが各地で報じられています。秋から冬への風物詩ですが、私にとって最も季節を感じる鳥は鶯です。毎年春になると、家のすぐそばで、大きな鳴き声で「ホーホケキョ・ホーホケキョ」と目覚まし時計のように、時にうるさいくらいさえずります。あの小さいからだから、あんなに大きな鳴き声ができるのが不思議です。先頃ふと、今年例年の様に鶯の鳴き声を聞いていないなあと思い出しました。5月も半ばを過ぎた頃、初めて、「ホーホケキョ」と1回だけ聞いた記憶が……。

鶯の鳴き声は、さえずり・地鳴き・谷渡りとありますが、よく耳にするのがさえずりの「ホーホケキョ」です。日本人に一番親しまれている鳥ではないでしょうか。早春の到来を告げる、あのなんともいえない鶯のさえずりは、「もう春だよ。心新たに頑張れ!!」と私に告げています。

⇒ 次回は ホームヘルプセンター武蔵野 瀧澤 千春 です。

編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社

次号は平成29年12月8日発行予定です



福祉公社ホームページ

URL <http://www.fukushikosha.jp/>

### 武蔵野市福祉公社・ホームヘルプセンター武蔵野

東京都武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

バス停「武蔵野八幡宮前」下車

☎0422-23-1165 (総務課、在宅サービス課)

☎0422-23-2611 (ホームヘルプセンター武蔵野)

### 武蔵野市立高齢者総合センター

東京都武蔵野市緑町2-4-1

バス停「武蔵野住宅」下車

☎0422-51-1975 (管理・社会活動センター)

☎0422-51-1974 (在宅介護支援・補助器具センター)

☎0422-51-2933 (デイサービスセンター)

### 武蔵野市立北町高齢者センター

東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

☎0422-54-5300 バス停「北町四丁目」から徒歩三分  
業務時間 8:30~17:15 (全て共通)